

## 久留米市ふるさと市民賞を受賞

国際保健センターの大久保孝行さん・スポーツを通じて地域振興に貢献



久留米市ふるさと市民賞を受ける大久保さん(左)

聖マリア病院国際保健センター参与（巡回健診担当）の大久保孝行さん（71 歳、久留米市荒木町荒木）が、平成 21 年度久留米市ふるさと市民賞を受賞しました。27 年にわたって地元ジュニアバレーボールの監督を務めるなど、スポーツを通じた地域振興と青少年育成に寄与されたのが受賞の理由です。2 月 13 日、市内のホテルで開かれた表彰式で、榎原・久留米市長から表彰状が授与されました。

大久保さんは 1982 年から荒木小学校の児童（2 - 6 年生）を対象にしたジュニアバレーボールチームの監督を務めています。毎週 3 日夕、同小の体育館で指導を行い、季節ごとの鍛錬キャンプや試合も含めると、1 年のうち 200 日以上を子どもたちと一緒に過ごしています。この 27 年間で大勢の子どもたちが巣立っていきました。そんな大久保さんにとって、毎年 1 月の「成人の日」に開くチームもちつき大会が、今では一番の楽しみになっていると言います。成人式に出席したかつての教え子たちが、必ずもちつき大会の会場にも足を運んでくれるからです。ジュニア時代の思い出話しに花を咲かせたり、ジュニアチームとの交流試合を楽しんだり、和気あいあいの一日です。今年も 1 月 11 日に開き、大久保さんと教え子たちの間で今も変わらないきずなを確かめました。

また、大久保さんは仕事の傍ら当病院バレーボール部の顧問も務めています。男女混合 9 人制で、毎週 2 日、聖マリア学院大学の体育館で練習を重ねています。その成果は、対抗試合で常に上位に食い込む成績となって現れています。優勝もたびたびです。

大久保さんは現在、市小学生バレーボール連盟会長、市バレーボール協会常務理事を務めています。ふるさと市民賞受賞を今後の励みとして「これからもスポーツを介したふるさとの振興にたずさわっていければ」と話していました。